

氷見市人口ビジョンのポイント

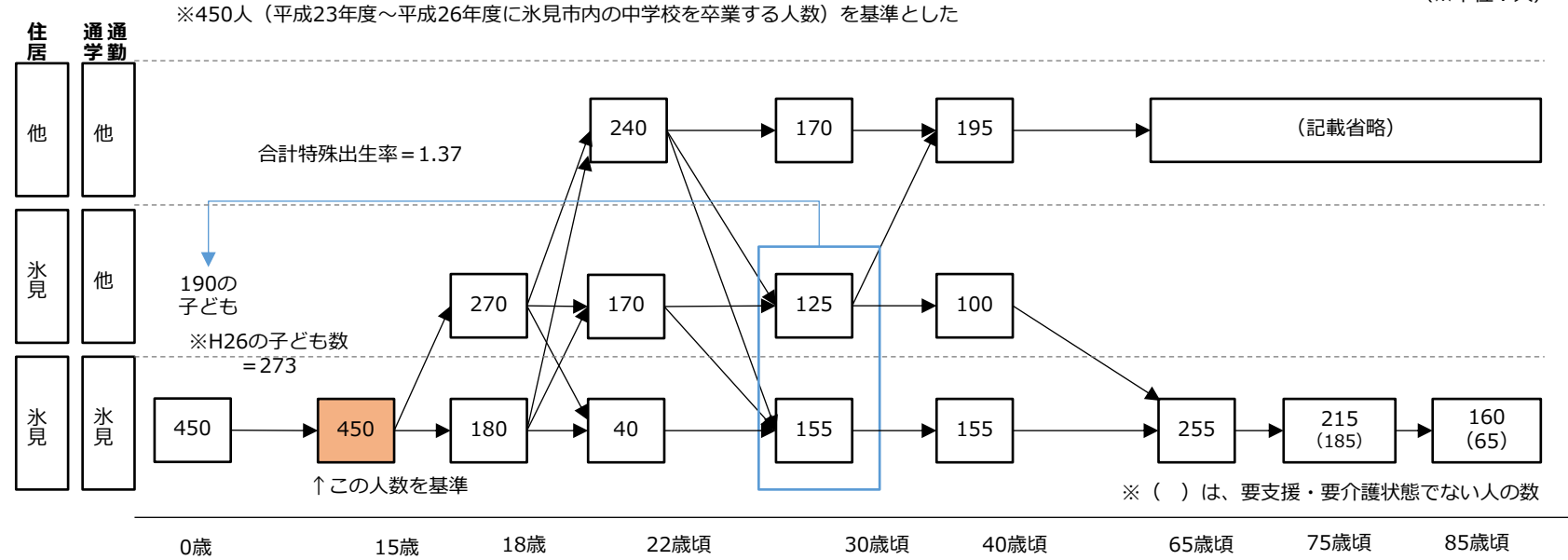
0. 【前提】氷見市の地方創生で重視すること

氷見市は「希望をかなえる」「持続可能な社会を実現する」ことを重視します。そのために、「ライフステージごとの人口移動」を確認し、「15の観点」を設定しました。

重視すること	ライフステージ
(1)希望をかなえる ・帰ってくる (Uターン) ・住み続ける (定住) ・健康長寿で暮らす	就職・結婚・転居・定住 (18・22・30・40・65才)
	長生き世代
(2)持続可能な社会にする (=寸胴型人口ピラミッドの実現) ・氷見を選んでもらう (IJターン) ・地域の子どもの数を維持する	就職・結婚・転居・定住 (18・22・30・40・65才)
	誕生・入学・進学 (0・7・15才)

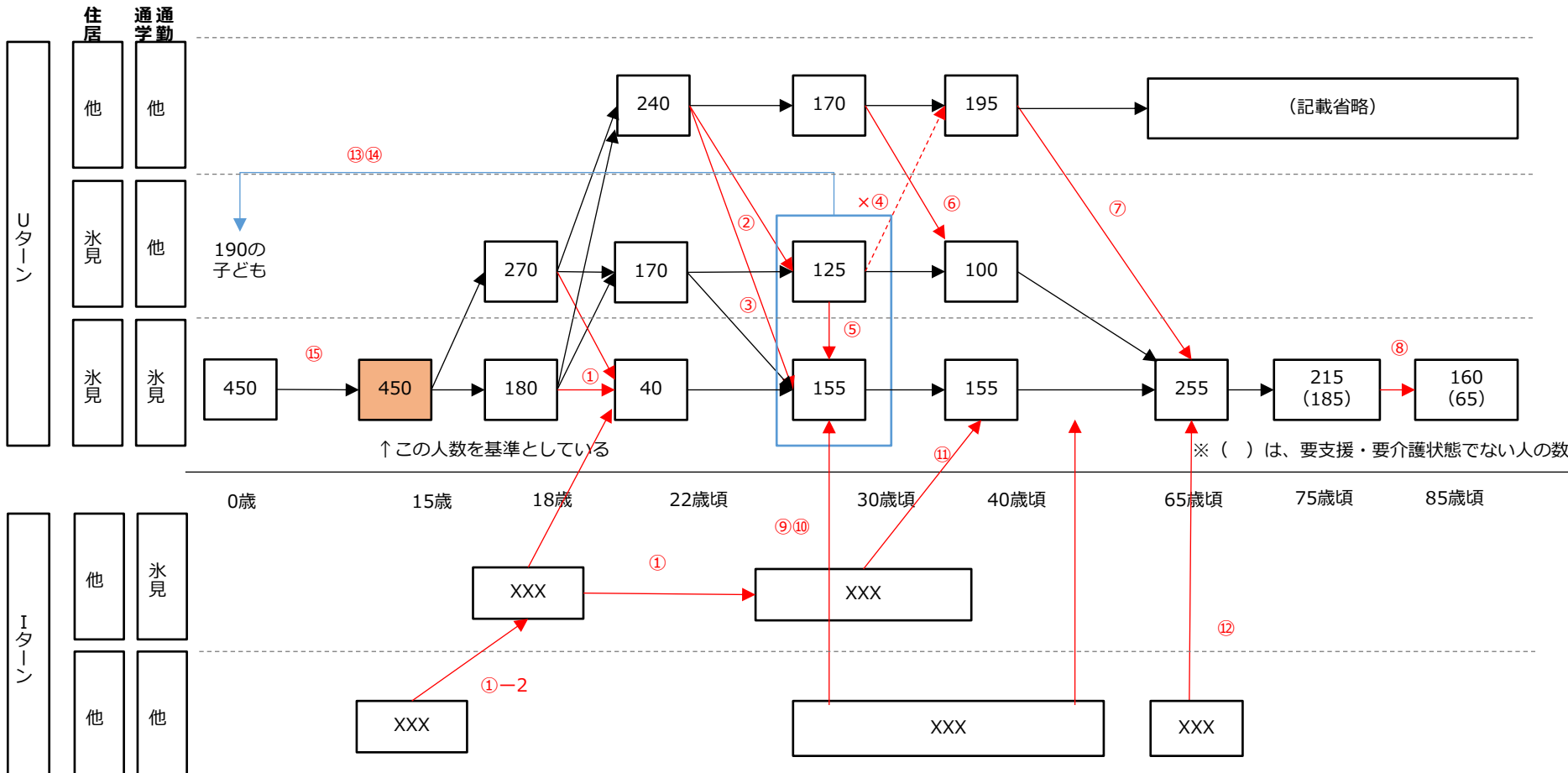
1. 【現状】氷見市の「ライフステージごとの人口移動」

(※単位：人)



※氷見市教育委員会資料（平成23年度～平成26年度の中学校卒業生の進路）、resas『富山県氷見市 年齢階級別純移動数の時系列分析』、S55～H22年国勢調査、とやま統計ワールド経由で取得した「平成11年富山県の人口」および「平成26年富山県の人口」、H25～H27ハローワーク氷見の資料、resas経由で取得した『人口動態調査』、公益財団法人 生命保健文化センター資料（元データは厚生労働省「介護給付費実態調査月報（平成26年7月）」 総務省「人口推計月報（平成26年7月）」）、国立社会保障・人口問題研究所の氷見市の生残率、住民基本台帳のH26出生数をベースとしてヒアリング等を踏まえて推計を実施。
数値については、一桁目を5か0とするレベルでの整理を実施。

2. 【観点】希望をかなえ、持続可能な社会にするための「氷見市15の観点」



- ① 【しごと】 氷見市に高卒新卒者が就きたい仕事を増やす
- ①-2 【ひとのながれ】 他地域からの氷見高校入学者を増やす
- ② 【ひとの流れ】 20代のUターンを増やす
- ③ 【しごと】 氷見市に20代の方が就きたい仕事を増やす
- ④ 【ひとの流れ】 氷見市から他地域に通勤する方の転居を減らす
- ⑤ 【しごと】 ④のために、氷見市に子育てと両立する仕事を増やす
- ⑥ 【子育て】 子育ての魅力で氷見市に引っ越す方を増やす
- ⑦ 【ひとの流れ】 定年後のUターンを増やす
- ⑧ 【安心な暮らし】 長生きをする＆健康寿命を伸ばす
- ⑨ 【ひとの流れ】 20～40代のIJターンを増やす
- ⑩ 【しごと】 20～40代のIJターン者が就きたい仕事を増やす
- ⑪ 【ひとの流れ】 他地域から氷見市内に通勤する方の転居を増やす
- ⑫ 【ひとの流れ】 定年後のIJターンを増やす
- ⑬ 【結婚】 婚姻数を増やす
- ⑭ 【出産】 出生数を増やす
- ⑮ 【ひとの流れ】 未就学児の親子で氷見市に引っ越す方を増やす

3. 【推計】「ライフステージごとの人口移動」をもとに人口展望を推計

「社会純増」と「出生の条件」を設定し、7つの推計パターンで人口推計を実施

推計パターンと条件	社会純増の条件	出生の条件	死亡の条件
1. 社人研※推計値	2020年に社会純増が半減	社人研の推計に準拠 (女性子ども比率を利用して出生数を計算)	社人研の生残率に準拠
2. 社人研究推計値で移動が半減しない場合(社人研の2020年の純移動率を2倍した値を利用)	2020年に社会純増が半減しない(社人研の2020年の純移動率を2倍した値を純移動率として利用)		※健康寿命は、直接人口に反映されないため、人口推計結果には含めない
3. 2で出生率が段階的に向上2040年以降は2.07で固定	社人研の2020年の純移動率を2倍した値を純移動率として利用	合計特殊出生率 2015年：1.37 2030年：1.90 2040年：2.07	
4. 3に社会純増が+50人	社人研の2020年の純移動率を2倍した値を純移動率として利用+50人の社会純増	※途中の年は段階的に出生率が向上するものとする	
5. 3に社会純増が+100人	社人研の2020年の純移動率を2倍した値を純移動率として利用+100人の社会純増	※「㊸婚姻数を増やす」「㊹出生数を増やす」を満たした結果として達成されるものとする	
6. 3に社会純増が+150人	社人研の2020年の純移動率を2倍した値を純移動率として利用+150人の社会純増		
7. 3に社会純増が+200人	社人研の2020年の純移動率を2倍した値を純移動率として利用+200人の社会純増		

※ 国立社会保障・人口問題研究所

※ 社会純増の人数は年間の人数

<年齢別の年間純増数の内訳>

15の観点に基づき、年齢別の年間純増数の内訳を記載しました

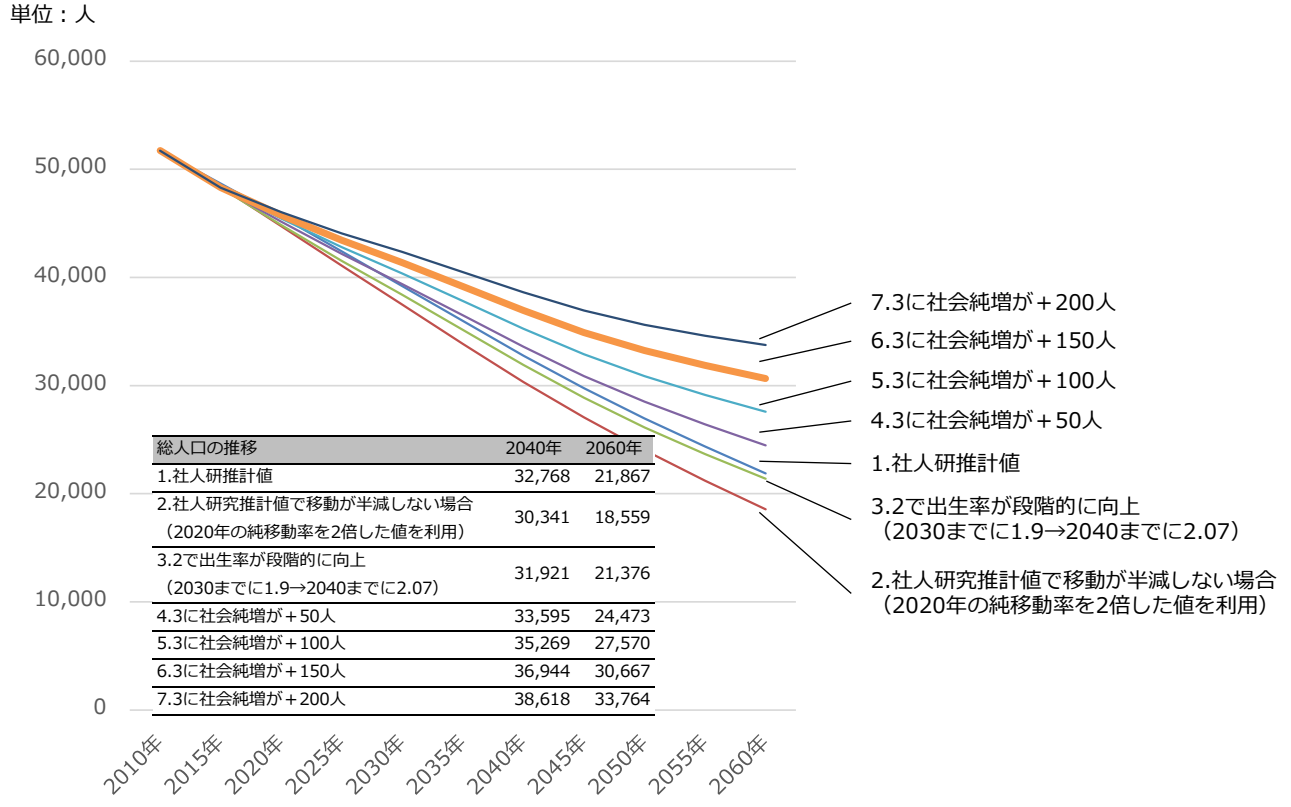
年齢	観点	50人の純増	100人の純増	150人の純増	200人の純増
0~4歳→5~9歳	⑮	5	10	15	20
5~9歳→10~14歳		0	0	0	0
10~14歳→15~19歳	①	0	0	0	0
15~19歳→20~24歳		0	0	0	0
20~24歳→25~29歳	②③④⑤⑥⑨⑩⑪	30	60	90	120
25~29歳→30~34歳	④⑤⑥⑨⑩⑪	5	10	15	20
30~34歳→35~39歳	④⑤⑥⑨⑩⑪	5	10	15	20
35~39歳→40~44歳		0	0	0	0
40~44歳→45~49歳		0	0	0	0
45~49歳→50~54歳		0	0	0	0
50~54歳→55~59歳		0	0	0	0
55~59歳→60~64歳		0	0	0	0
60~64歳→65~69歳	⑦⑫	5	10	15	20
65~69歳→70~74歳		0	0	0	0
70~74歳→75~79歳		0	0	0	0
75~79歳→80~84歳		0	0	0	0
80~84歳→85~89歳		0	0	0	0
85歳以上→90歳以上		0	0	0	0
合計		50	100	150	200

※ 社会純増の人数は年間の人数。推計条件に従った厳密な計算では、5年間の社会純増数を5で除したものである。例えば、150人の純増のうち、20~24→25~29歳の人数は90人であるが、推計上は5年で450人という単位で計算したものである

- 【しごと】氷見市に高卒新卒者が就きたい仕事を増やす
- 2【ひとのながれ】他地域からの氷見高校入学者を増やす
- 【しごと】氷見市に20代の方が就きたい仕事を増やす
- 【ひとの流れ】氷見市から他地域に通勤する方の転居を減らす
- 【しごと】④のために、氷見市に子育てと両立する仕事を増やす
- 【子育て】子育ての魅力で氷見市に引っ越し方を増やす
- 【ひとの流れ】定年後のUターンを増やす
- 【安心な暮らし】長生きをする&健康寿命を伸ばす
- 【ひとの流れ】20~40代のIJターンを増やす
- 【しごと】20~40代のIJターン者が就きたい仕事を増やす
- 【ひとの流れ】他地域から氷見市内に通勤する方の転居を増やす
- 【ひとの流れ】定年後のIJターンを増やす
- 【結婚】婚姻数を増やす
- 【出産】出生数を増やす
- 【ひとの流れ】未就学児の親子で氷見市に引っ越し方を増やす

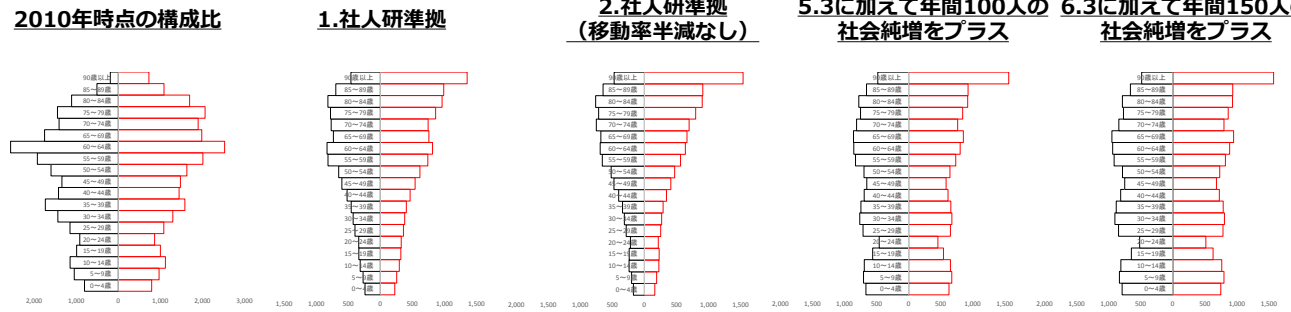
<人口推計(7パターン)>

要検討：パターン6を人口目標にすることは妥当か？



<2060年の人口ピラミッド>

パターン1(社人研推計に準拠)の場合、逆三角形の人口ピラミッドに、パターン6の場合、円柱系に近い人口ピラミッドになります。



<年間社会純増減数の推移>

パターン6の場合、2030年時点で社会純増となります。

社会純増減の推移 単位：人	2010年→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
1. 社人研推計値		-168	-100	-83	-77	-71	-49	-40	-38	-35
2. 社人研究推計値で移動が半減しない場合(2020年の純移動率を2倍した値を利用)		-227	-196	-160	-133	-120	-81	-62	-55	-49
3. 2で出生率が段階的に向上(2030までに1.9→2040までに2.07)		-227	-196	-160	-131	-123	-99	-87	-80	-72
4. 3に社会純増が+50人		-227	-146	-111	-85	-80	-60	-50	-45	-38
5. 3に社会純増が+100人		-227	-96	-62	-39	-37	-20	-13	-9	-4
6. 3に社会純増が+150人		-227	-46	-14	8	7	20	25	27	31
7. 3に社会純増が+200人		-227	4	35	54	50	59	62	63	65

※ 人数は、推計結果を5で割った数を記載(5年単位を1年単位に修正するため)
 ※ 増減「率」を用いて推計を行っているため、社会純増減数がゼロに近づく(人口減少によって母数が減るため)
 ※ パターン4~7の推計では、母数が減る一方で毎年同数の社会純増があるため、社会純増減数が増加する
 ※ パターン7において2030→2035の数が減っている理由は、現在の子ども数が少ないため(2035年頃に進学時に差しかかるが、そもそもの数が少ないため、流出数も少なくなる)